

コンソールサーバ SmartCS 「NS-2240」と PRIMERGY の接続検証結果

エスアイアイ・ネットワーク・システムズ株式会社

1. はじめに

コンソールサーバ SmartCS 「NS-2240」とPRIMERGYとの接続検証を実施しましたので、以下に報告致します。

Redhat Enterprise Linux ES と Windows Server 2003 R2 をインストールした PRIMERGY を、コンソール サーバ SmartCS 「NS-2240」(以降、SmartCS と略記します)を経由して管理できることを本接続検証 で確認しました。接続検証の詳細は下記を参照してください。

2. 検証日時と検証場所

検証日時: 2008 年 9 月 3 日(水) ~ 2008 年 9 月 4 日(木) 検証場所: 富士通株式会社 プラットフォームソリューションセンター

3. 検証機器

• コンソールサーバ

 SmartCS「NS-2240-32」System Software Version 1.1 NS-2240 シリーズは搭載しているシリアルポート数(16/24/32)により、型番が異なります。
 3 機種(NS-2240-16/NS-2240-24/NS-2240-32)の違いはシリアルポート数のみですので、 本接続検証結果は3 機種全てに該当します。



(前面)



(背面)

● 接続検証を実施したサーバ機

サーバ機種	OS
PRIMERGY	Redhat Enterprise Linux ES v.4 Update6 相当 (カーネル 2.6.9-37.EL)
RX200 S4	Windows Server 2003 R2 (Standard Edition)
PRIMERGY	Redhat Enterprise Linux ES v.4 Update6 相当 (カーネル 2.6.9-37.EL)
RX300 S4	Windows Server 2003 R2 (Standard Edition)



4. 接続検証の構成

SmartCSとPRIMERGY RX200 S4/RX300 S4の接続検証は下記の構成にて実施しました。



5. SmartCS と PRIMERGY を結ぶシリアルケーブル

SmartCSとPRIMERGY RX200 S4/RX300 S4は、下表のシリアルケーブルを利用して接続検証を行いました。

機種	シリアルケーブルとコネクタ
PRIMERGY RX200 S4	Cat5e ストレートケーブル + NS-490(DB9 変換コネクタ)
PRIMERGY RX300 S4	Cat5e ストレートケーブル + NS-490(DB9 変換コネクタ)

6. 接続検証の結果

UTF-8 Teraterm を搭載した PC から SmartCS を経由して、PRIMERGY RX200 S4/RX300 S4 のコンソ ール操作ができることを確認しました。 接続検証結果を下表に記載します。

• PRIMERGY (Redhat Enterprise Linux ES v.4 Update 6)

	PRIMERGY	
検証項目	RX200 S4	RX300 S4
Telnet クライアントから SmartCS を経由した BIOS の操作	1	1
Telnet クライアントから SmartCS を経由した Grub の操作		
Telnet クライアントから SmartCS を経由した Linux の操作		
Telnet クライアントから SmartCS を経由した iRMC の操作		

• PRIMERGY (Windows Server 2003 R2)

Р		RGY
検証項目	RX200 S4	RX300 S4
Telnet クライアントから SmartCS を経由した BIOS の操作	1	1
Telnet クライアントから SmartCS を経由した EMS の操作		
Telnet クライアントから SmartCS を経由した iRMC の操作		

1 シリアルコンソールから BIOS メニューに移動する場合は、[F2]ファンクションキーの代わりに [ESC]+[2]を押下します。



7. 問い合わせ先

エスアイアイ・ネットワーク・システムズ 株式会社

NS 営業部

TEL

: 043-211-1318

E-Mail : ns-support@sii.co.jp

製品 URL : http://www.sii.co.jp/ns



参考情報

PRIMERGY の設定変更 (BIOS)

SmartCS を経由して PRIMERGY RX200 S4/RX300 S4 の BIOS 操作するために、 PRIMERGY の BIOS 設定を変更します。

- PRIMERGY RX200 S4/RX300 S3 の BIOS
 - Main メニュー
 - 「Boot Option」->「Keyboard Check」を Enable から Disable に変更します。
 - > Server XII-

「Console Redirection」を Disable から Enable に変更します。

「Protocol」を VT100+から VT100 に変更します。

「Flow」を CTS/RTS から None に変更します。

「Mode」を Enhanced から Standard に変更します。

PRIMERGY の設定変更 (Linux)

SmartCS を経由して PRIMERGY RX200 S4/RX300 S4 にインストールした Linux を操作するために、以下の設定ファイルを変更します。

• /boot/grub/grub.conf

Grub をシリアルコンソールに表示するために、grub.conf ファイルを変更します。 splashimage をコメントにします。 title 行の前に、下記の 2 行を追加します。 serial --unit=0 --speed=9600 --word=8 --parity=no --stop=1 terminal --timeout=10 serial console kernel 行の後に、console=tty0 console=ttyS0,9600n8 を追加します。

▶ 修正前(オリジナル)

default=0
timeout=10
splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz
hiddenmenu
passwordmd5 \$1\$vPegdFHi\$2V2ydyNcBcJ3pWZ6SuraV/
title Red Hat Enterprise Linux AS (2.6.9-34.ELsmp)
root (hd0,0)
kernel /vmlinuz-2.6.9-34.ELsmp ro root=LABEL=/1 rhgb quiet
initrd /initrd-2.6.9-34.ELsmp.img
title Red Hat Enterprise Linux AS-up (2.6.9-34.EL)
root (hd0,0)
kernel /vmlinuz-2.6.9-34.EL ro root=LABEL=/1 rhgb quiet
initrd /initrd-2.6.9-34.EL.img



修正後

 \triangleright

default=0	
timeout=10	
#splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz	【変更】
hiddenmenu	
passwordmd5 \$1\$vPegdFHi\$2V2ydyNcBcJ3pWZ6SuraV/	
serialunit=0speed=9600word=8parity=nostop=1	<u>【追加】</u>
terminaltimeout=10 serial console	<u>【追加】</u>
title Red Hat Enterprise Linux AS (2.6.9-34.ELsmp)	
root (hd0,0)	
kernel /vmlinuz-2.6.9-34.ELsmp ro root=LABEL=/1 rhgb	quiet console=tty0
console=ttyS0,9600n8	【変更】
initrd /initrd-2.6.9-34.ELsmp.img	
title Red Hat Enterprise Linux AS-up (2.6.9-34.EL)	
root (hd0,0)	
kernel /vmlinuz-2.6.9-34.EL ro root=LABEL=/1 rhgb (quiet console=tty0
console=ttyS0,9600n8	【変更】
initrd /initrd-2.6.9-34.EL.img	

/etc/inittab

Linux の起動メッセージをシリアルコンソールに表示するために、inittab ファイルの最終行に、 co:2345:respawn:/sbin/agetty 9600 ttyS0 vt100 を追加します。

Run xdm in runlevel 5
x:5:respawn:/etc/X11/prefdm nodaemon

co:2345:respawn:/sbin/agetty 9600 ttyS0 vt100

---【追加】

● /etc/sysconfig/kudzuの設定

シリアルポートの初期化を抑止するために、kudzu ファイルの SAFE パラメータを yes に変更します。

▶ 修正前(オリジナル)

Set to anything other than 'no' to force a 'safe' probe on startup.

- # 'safe' probe disables:
- # serial port probing
- # DDC monitor probing
- # PS/2 probing
- SAFE=no



≻ 修正後

Set to anything other than 'no' to force a 'safe' probe on startup.

'safe' probe disables:

- serial port probing

- DDC monitor probing

- PS/2 probing

SAFE=yes

---【変更】

● /etc/securettyの設定

シリアルコンソールから root でログインするために、securetty ファイルの最終行に ttyS0を追加します。

:	
tty10	
tty11	
ttyS0	(追加)

● /etc/sysconfig/initの設定

init ファイルの BOOTUP パラメータを color から serial に変更します。

▶ 修正前(オリジナル)

color => new RH6.0 bootup
verbose => old-style bootup
anything else => new style bootup without ANSI colors or positioning
BOOTUP=color
Turn on graphical boot
GRAPHICAL=yes
column to start "[OK]" label in
RES_COL=60
...

≻ 修正後

color => new RH6.0 bootup # verbose => old-style bootup # anything else => new style bootup without ANSI colors or positioning <u>BOOTUP=serial</u> ----【変更】 # Turn on graphical boot GRAPHICAL=yes # column to start "[OK]" label in RES_COL=60 :



PRIMERGY の設定変更 (iRMC)

SmartCSを経由して PRIMERGY RX200 S4/RX300 S4の iRMCを操作するために、PRIMERGYのBIOS 設定を変更します。

- PRIMERGY RX200 S4/RX300 S3 Ø BIOS
 - > Advanced XII-

「Peripheral Configuration」->「Serial1」を Auto から disable に変更します。

「Peripheral Configuration」->「Serial Multiplexer」を System から iRMC に変更します。

Linux や Windows の EMS を利用する場合は、「Peripheral Configuration」->「Serial Multiplexer」は System のままでご利用ください。

以上